

◇研究の概要

1 研究主題

社会的な見方・考え方を働かせながら、社会事象に進んで関わり、社会生活への理解を深めていく子供の育成

— 子供の「問い」を生み出す指導の工夫を通して —

2 主題設定の理由

昨年度は「伝え合いを通して、思いや考えを深める子供の育成」を研修主題として研修を行った。必要感をもてる課題の設定や教材提示の仕方を工夫することで、子供は社会事象と主体的に関わり、自分なりの考えをもつことができた。また、発問や問い返しを工夫することで、子供たちが関わり合い、考えを深める姿も見られた。しかし、課題提示においては子供が主体的に取り組むものの、そこで生まれた「問い」が次の「問い」へとつながらず、単元を通した課題意識につながらないこともあった。

そこで、今年度は、子供にとって本当に考えたい「問い」を生み出すための指導の工夫を研修の重点と置く。自分の考えと事象との「ズレ」、自分の考えと友達の考えとの「ズレ」により、子供たちに新たな気づきや問いが生まれ、子供が単元を通して主体的に取り組めるような教材や学習過程の在り方について考えていきたい。多様な視点から問いを抱き、社会事象と関わる中で、社会生活への理解を深めていく子供の育成を目指す。

子供の「問い」を生み出すためには、まず、身に付けさせたい力を明確にすることが大切である。その際、知識の構造図を用い、獲得すべき具体的知識や概念的知識は何かを分析する。その上で、子供の思考の流れを想定し、具体的知識を促す「どのような」という「問い」、概念的知識を促す「なぜ・どうして」という「問い」、社会生活に生かすための「どうすべきか・何が大切か」という「問い」が生まれるように、学習過程を構成する。さらに、このような学びを支える言語活動の充実についても研修を図っていきたい。

3 研究の仮説と内容

(1) 問いを生み出すための教材研究の工夫

【仮説1】

身につけたい力を明確にし、そこに向かい、切実感をもって考えられるように、教材を選定し、単元を構想することで、子供は社会的な事象に進んで関わっていく。

研究内容

- ・知識の構造図等を用い、身に付けたい力を明確にする教材研究
- ・学習指導要領等を踏まえた評価規準の作成
- ・切実感をもって考えられる教材の選定
- ・児童の思考の流れに沿った単元構想

(2) 問いを生み出すための学習過程の工夫

【仮説2】

事象や考えの「ズレ」を顕在化することで、子供に問いが生まれ、新たな視点から社会的な事象と関わる中で、社会生活への理解を深めていく。

研究内容

- ・子供の実態を踏まえた効果的な問いの構成の工夫
- ・確かな事実認識を支える学習活動の工夫
- ・「ズレ」を顕在化する話し合い活動の工夫
- ・見方や考え方を広げたり深めたりする問い返しの工夫